

Sun Server X4-2L

VMware ESXi インストールガイド

Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ, AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	5
最新のソフトウェアとファームウェアの入手	5
このドキュメントについて	5
関連ドキュメント	5
フィードバック	6
サポートとアクセシビリティ	6
1. VMware ESXi のインストールについて	7
VMware ESXi のインストールタスクマップ	7
サポートされている VMware ESXi ソフトウェア	8
コンソール表示オプションの選択	8
コンソール表示オプション	8
▼ ローカルコンソールを設定する	9
▼ リモートコンソールを設定する	9
ブートメディアオプションの選択	10
ブートメディアオプションの要件	10
▼ ローカルブートメディアオプションを設定する	11
▼ リモートブートメディアオプションを設定する	11
インストール先オプションの選択	12
インストール先のオプション	12
▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する	13
▼ インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する	13
VMware ESXi のインストールオプション	13
サーバー 1 台構成のインストール方法	13
2. VMware ESXi のインストール準備	15
BIOS の設定	15
▼ BIOS の出荷時デフォルトを検証する	15
▼ Legacy BIOS と UEFI BIOS を切り替える	17
ネットワーク接続をサポートするための VMware ESXi 5.0 ソフトウェアまたはサーバーハードウェアの構成	19
ESXi ISO インストールイメージへの必要なドライバの追加	20
互換性のあるネットワークインタフェースカードのサーバーへの取り付け	20
RAID の構成	20
3. VMware ESXi のインストール	23
準備作業	23
メディアによる単一システムへの VMware ESXi のインストール	24
▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して VMware ESXi をインストールする	24
4. VMware ESXi のインストール後タスク	27

- ▼ ネットワークアダプタ設定を構成する 27
- ▼ 接続されているサーバーネットワークポートの MAC アドレスを確認する 29
- ▼ VMware ESXi ソフトウェアを更新する 29
- ▼ VMware ESXi リソースを管理する 29
- 5. ネットワークインタフェースの構成** 31
 - NIC コネクタ 31
- 索引** 33

このドキュメントの使用方法

このインストールガイドでは、VMware ESXi ソフトウェアのインストール手順と、Oracle の Sun Server X4-2L を構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。

このドキュメントは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ、およびオペレーティングシステムのインストールについての経験を持つユーザーを対象としています。

このセクションでは、最新のソフトウェアとファームウェア、ドキュメントとフィードバック、およびサポートとアクセシビリティ情報の入手方法を説明します。

- [5 ページの「最新のソフトウェアとファームウェアの入手」](#)
- [5 ページの「このドキュメントについて」](#)
- [5 ページの「関連ドキュメント」](#)
- [6 ページの「フィードバック」](#)
- [6 ページの「サポートとアクセシビリティ」](#)

最新のソフトウェアとファームウェアの入手

各 Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシ用のファームウェア、ドライバ、その他のハードウェア関連ソフトウェアは定期的に更新されます。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant – これは、工場出荷時にインストールされる Oracle x86 サーバー向けの新しいオプションです。必要なすべてのツールとドライバが含まれており、サーバーに組み込まれています。
- My Oracle Support: <http://support.oracle.com>
- 物理メディアの申請

詳細については、『[設置](#)』、「[サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手](#)」を参照してください。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。情報は (オンラインヘルプと同様の) トピック単位の形式で提供されるので、章、付録、セクション番号はありません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF バージョンを生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle ドキュメント	http://www.oracle.com/documentation

ドキュメント	リンク
Sun Server X4-2L	http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs
Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド	http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Hardware Management Pack 2.2	http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs

フィードバック

このドキュメントについてのフィードバックは、次の場所ですenderことができます。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	http://support.oracle.com
	聴覚障害の方へ: http://www.oracle.com/accessibility/support.html
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html

・・・第 1 章

VMware ESXi のインストールについて

このセクションでは、VMware ESXi を サーバー にインストールする手順の概要を説明します。

説明	リンク
VMware ESXi ソフトウェアのインストール手順について学習します。	7 ページの「VMware ESXi のインストールタスクマップ」
サポートされている VMware ESXi ソフトウェアのバージョンについて学習します。	8 ページの「サポートされている VMware ESXi ソフトウェア」
コンソール表示オプションとそれらの設定方法について学習します。	8 ページの「コンソール表示オプションの選択」
ブートメディアオプションとそれらの設定方法について学習します。	10 ページの「ブートメディアオプションの選択」
インストール先オプションとそれらの設定方法について学習します。	12 ページの「インストール先オプションの選択」
VMware ESXi のインストールオプションについて学習します。	13 ページの「VMware ESXi のインストールオプション」

関連情報

- ・ [23 ページの「VMware ESXi のインストール」](#)

VMware ESXi のインストールタスクマップ

次の表では、VMware ESXi ソフトウェアのインストール手順について説明します。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none">・ 『設置』、「サーバーのラックへの設置」・ 『設置』、「サーバーの配線」・ 『設置』、「Oracle ILOM への接続」
2.	VMware ESXi のインストールメディアおよびドキュメントを入手します。このドキュメントは、以降の手順 7 と 8 で説明するインストール手順およびインストール後手順とともに使用するようになっています。	<ul style="list-style-type: none">・ VMware ESXi インストールプログラムの ISO イメージは、http://www.vmware.com/download からダウンロードできます・ VMware ESXi のリリースノートは、http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vcenter-server-pubs.html からダウンロードできます
3.	サーバーのプロダクトノートを確認します。	『 Sun Server X4-2L プロダクトノート 』（ http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs ）

手順	説明	リンク
4.	インストールの実行に使用するコンソール、メディア、インストール先を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 8 ページの「コンソール表示オプションの選択」 10 ページの「ブートメディアオプションの選択」 12 ページの「インストール先オプションの選択」
5.	VMware ESXi の新規インストール時の BIOS 設定を確認します。	15 ページの「BIOS の出荷時デフォルトを検証する」
6.	ネットワーク接続をサポートするように VMware ESXi ソフトウェアまたはサーバーハードウェアを構成します。	19 ページの「ネットワーク接続をサポートするための VMware ESXi 5.0 ソフトウェアまたはサーバーハードウェアの構成」。
7.	VMware ESXi ソフトウェアをインストールします。	24 ページの「メディアによる単一システムへの VMware ESXi のインストール」
8.	インストール後のタスクを適宜実行します。	27 ページの「VMware ESXi のインストール後タスク」

関連情報

- 15 ページの「[VMware ESXi のインストール準備](#)」

サポートされている VMware ESXi ソフトウェア

サーバー は、次の VMware ESXi ソフトウェアをサポートしています。

VMware ソフトウェア	版
VMware ESXi 5.0	5.0 Update 2
VMware ESXi 5.1	5.1 Update 1

さらに、サポートされているその他のオペレーティングシステムや仮想マシンソフトウェアをサーバーにインストールすることもできます。サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの最新のリストについては、<http://www.oracle.com/goto/X4-2L/docs> にある最新バージョンの『*Sun Server X4-2L プロダクトノート*』を参照してください。サポートされているオペレーティングシステムの一覧は、<http://wikis.oracle.com/display/SystemsComm/Sun+Server+X4-2L++Operating+Systems> でも確認できます。

関連情報

- 23 ページの「[VMware ESXi のインストール](#)」

コンソール表示オプションの選択

このセクションでは、インストールを実行するためにコンソールを接続するオプションについて説明します。

- 8 ページの「[コンソール表示オプション](#)」
- 9 ページの「[ローカルコンソールを設定する](#)」
- 9 ページの「[リモートコンソールを設定する](#)」

コンソール表示オプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、VMware ESXi ソフトウェアのインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- ・ シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末

端末を、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続した端末エミュレータに接続することもできます。

- ・ ビデオポート (VGA) と 2 つの背面 USB コネクタに直接接続した VGA モニター、USB キーボード、および USB マウス

サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールからソフトウェアのインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります。

- ・ Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ・ ネットワーク管理ポート (NET MGT) への Secure Shell (SSH) クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

1. ローカルコンソールを接続するには、次のいずれかを実行します。

- ・ 直接または端末エミュレータを介して、シリアル管理ポート (SER MGT) に端末を接続します。
- ・ VGA モニター、キーボード、マウスをビデオポート (VGA) と USB ポートに接続します。

2. シリアル管理ポート (SER MGT) 接続の場合のみ、ホストシリアルポートへの接続を確立するには:

- a. Oracle ILOM のユーザー名およびパスワードを入力します。
- b. Oracle ILOM プロンプトで、次を入力します。

```
-> start /HOST/console
```

シリアル管理ポート出力は、Linux ホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

関連情報

- ・ <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ

▼ リモートコンソールを設定する

1. サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。

コマンド行インタフェースまたは Web インタフェースのどちらかを使用して Oracle ILOM にリモートからログインするには、サーバーのサービスプロセッサ (SP) の IP アドレスを知っている必要があります。手順については、『[設置](#)』、「サーバー SP の IP アドレスの確認」を参照してください。

2. Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、これらの手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。

- a. Web ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。
- b. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
- c. Oracle ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。

-
- d. 必要に応じて、「Devices」メニューでデバイスのリダイレクト (マウス、キーボードなど) を有効にします。
3. SSH クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。
 - a. シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を確立します (**ssh root@hostname**。ここでは、hostname はサーバー SP の DNS 名または IP アドレス)。
 - b. Oracle ILOM にログインします。
 - c. 次を入力して、シリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします。

-> **start /HOST/console**

関連情報

- <http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs> にある Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ

ブートメディアオプションの選択

サーバーへのソフトウェアのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートします。このセクションでは、サポートされているメディアソースおよび各ソースの設定要件について説明します。

- [10 ページの「ブートメディアオプションの要件」](#)
- [11 ページの「ローカルブートメディアオプションを設定する」](#)
- [11 ページの「リモートブートメディアオプションを設定する」](#)

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- [10 ページの「ローカルブートメディアの要件」](#)
- [10 ページの「リモートブートメディアの要件」](#)

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

サポートされている OS のローカルブートメディアソースには、次のものがあります:

- CD/DVD-ROM インストールメディア
- 該当する場合は、フロッピーデバイスドライバメディア

リモートブートメディアの要件

リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールをブートする必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものがあります。

- CD/DVD-ROM インストールメディア
- CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージメディア
- 自動インストールイメージ (PXE ブートが必要)。インストールのセットアッププロセスを自動化する詳しい手順については、<http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vcenter-server-pubs.html> から入手できる ESXi 5 のインストールドキュメントを参照してください。

▼ ローカルブートメディアオプションを設定する

ローカルブートメディアを設定するには、次のいずれかのオプションを使用して、ESXi ソフトウェアインストールメディアが格納されているストレージデバイスをサーバーに装着する必要があります。

1. サーバーにオプションの DVD ドライブが装備されている場合は、サーバー前面の DVD ドライブに ESXi ソフトウェアインストール DVD を挿入します。それ以外の場合は、次の手順に進みます。
2. 使用しているサーバーに DVD ドライブがない場合は、サーバーのフロントや背面に適切なストレージデバイスを接続します。



注記

ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『[設置](#)』、『[サーバーの配線](#)』を参照してください。

▼ リモートブートメディアオプションを設定する

リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、次の手順を実行します。

1. ブートメディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。
 - **CD/DVD-ROM** の場合、リモートワークステーション上の組み込み型または外付けの CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。
 - **CD/DVD-ROM ISO** イメージの場合、ネットワーク共有された場所で ISO イメージがすぐに利用できることを確認します。
 - デバイスドライバフロッピーの **IMG** イメージの場合、IMG イメージが (該当する場合) ネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐに利用できることを確認します。
2. サーバー Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。
詳細は、[8 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。
3. Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Devices」メニューで、次のようなブートメディアの場所を指定します：
 - **CD/DVD-ROM** ブートメディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。
 - **CD/DVD-ROM ISO** イメージブートメディアの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。

- ・ フロッピーデバイスドライバブートメディアの場合は、「Floppy」を選択します (該当する場合)。
- ・ フロッピーイメージのデバイスドライバブートメディアの場合は、「Floppy Image」を選択します (該当する場合)。

インストール先オプションの選択

このセクションでは、インストール先を設定する方法について説明します。

- ・ [12 ページの「インストール先のオプション」](#)
- ・ [13 ページの「ローカルストレージドライブ \(HDD または SSD\) をインストール先として設定する」](#)
- ・ [13 ページの「インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する」](#)

インストール先のオプション

組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (Oracle System Assistant 用に予約されている) を除き、サーバーに取り付けたどのストレージドライブにもソフトウェアをインストールできます。これらにはハードディスクドライブ (HDD) と半導体ドライブ (SSD) があります。



注記

SSD は Oracle Engineered Systems でしかサポートされません。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、ソフトウェアを外付けの FC ストレージデバイスにインストールすることも選択できます。

重要: 内蔵の組み込み型 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブは、ブート用またはストレージ用のドライブとしては使用しないでください。

サーバーは、組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを装備した状態で出荷されます。このドライブには、Oracle System Assistant、デバイスドライバ、および Oracle ILOM、BIOS、およびサポートされている IO デバイス用のファームウェアが含まれています。サポートされるすべてのオペレーティングシステムのインストール中に、この USB フラッシュドライブは、読み取り/書き込み可能な単一パーティションを持つ SCSI ディスクとして検出され、ドライブのリストに **Oracle_SSM** と表示されます。次の操作を実行するときに、このデバイスを上書きしないように注意してください。

- ・ オペレーティングシステムのインストール
- ・ ディスクまたはパーティションのフォーマット操作
- ・ 一般的なディスク、パーティション、またはファイルシステムの保守

この USB フラッシュドライブが上書きされた場合でも、元の内容を復元できます。USB フラッシュドライブの内容を復元するには、Oracle System Assistant 復旧および ISO 更新イメージを取得し、このイメージを使用して復元処理を実行します。

Oracle System Assistant 復旧および ISO 更新イメージをダウンロードし、サーバーの Oracle System Assistant フラッシュドライブを復元する手順については、*Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド* (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する

- ハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。
HDD または SSD の取り付けと電源の投入方法については、『サービス』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。



注記

SSD は Oracle Engineered Systems でしかサポートされません。

▼ インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する

- サーバーに PCIe ホストバスアダプタが正しく取り付けられていることを確認します。
PCIe HBA オプションの設置方法については、『サービス』、「PCIe カードの保守 (CRU)」を参照してください。
- Storage Area Network (SAN) をインストールおよび構成して、サーバーホストでストレージデバイスが認識されるようにします。
手順については、ファイバチャネル HBA 付属のドキュメントを参照してください。

VMware ESXi のインストールオプション

下の表では、単一サーバーのインストールオプションについて説明します。

オプション	説明
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、単一サーバーに ESXi ソフトウェアをインストールします。 <ul style="list-style-type: none">ローカル: ESXi のインストールは、サーバーでローカルに実行されます。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。リモート: ESXi のインストールは、リモートの場所から実行されます。ESXi の手動インストールを実行するには、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用します。

サーバー 1 台構成のインストール方法

ESXi インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用して、要件にもっとも適したローカルまたはリモートの ESXi のインストールを選択します。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 - サーバーに接続した物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB CD/DVD ドライブ、および ESXi 配布メディア。ローカルインストールの場合は、

メディアの配布方法	その他の要件
リモートでの CD/DVD の ISO イメージの使用 – Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上でリダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブまたは DVD ISO イメージを使用します。	サーバーに直接接続されたローカルの CD/DVD ドライブを使用してインストールメディアを配布します。 ブラウザを備えたリモートシステム、接続された物理 CD/DVD ドライブ、ESXi 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。リモートインストールの場合、リモートの CD/DVD、USB デバイス、または CD/DVD イメージを使用してインストールメディアを配布します。

・・・第 2 章

VMware ESXi のインストール準備

これらのトピックでは、VMware ESXi のインストールのためにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
BIOS の設定。	15 ページの「BIOS の設定」
ネットワーク接続をサポートするように VMware ESXi ソフトウェアまたはサーバーハードウェアを構成します。	19 ページの「ネットワーク接続をサポートするための VMware ESXi 5.0 ソフトウェアまたはサーバーハードウェアの構成」
サーバーで RAID を構成します。	20 ページの「RAID の構成」

BIOS の設定

VMware ESXi ソフトウェアをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように BIOS 設定が構成されていることを確認するようにしてください。次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています。

- ・ [15 ページの「BIOS の出荷時デフォルトを検証する」](#)
- ・ [17 ページの「Legacy BIOS と UEFI BIOS を切り替える」](#)

関連情報

- ・ [24 ページの「メディアによる単一システムへの VMware ESXi のインストール」](#)

▼ BIOS の出荷時デフォルトを検証する



注記

サーバーを新しく設置し、オペレーティングシステムをはじめてインストールした場合、通常 BIOS はデフォルトに構成されていて、このタスクを実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、デフォルト値を設定することもできます。BIOS 設定ユーティリティ (F2) で変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 を使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集できるほか、BIOS の起動中に F8 を使用することで、一時ブートデバイスを指定できます。F8 を使用して一時ブートデバイスを設定し

た場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 で指定した常時ブートデバイスが有効になります。

次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が搭載されています。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されています。手順については、『サービス』の「ストレージドライブおよび背面ドライブ (CRU) の保守」を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されています。詳細は、[8 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、サーバーをリセットするには:

- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースから「Host Management」>「Power Control」をクリックし、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **Oracle ILOM CLI** で、プロンプトから次のコマンドを入力します。

```
-> reset /System
```

BIOS 画面が表示されます。



2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

3. 出荷時のデフォルト値に設定するために、次を実行します。

- a. F9 を押すと、出荷時のデフォルト設定が自動的にロードされます。

メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「CANCEL」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。

- b. メッセージで「OK」を強調表示して、Enter を押します。

BIOS 設定ユーティリティ画面が表示され、システム時間フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。

4. BIOS 設定ユーティリティで次の手順を実行して、システム時間またはシステム日付に関する値を編集します。

- a. 変更する値を強調表示します。

上下の矢印キーを使用して、システムの時間と日付の選択を変更します。

-
- b. 強調表示された欄の値を変更するには、次のキーを使用します。
 - プラス (+) を押すと、表示されている現在の値が増加します
 - マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します
 - Enter を押すと、カーソルが次の値の欄に移動します
 5. ブート設定にアクセスするには、「Boot」メニューを選択します。
「Boot」メニューが表示されます。
 6. 「Boot」メニューで、「UEFI/BIOS Boot Mode」がインストールに適した値に設定されていることを検証します。
ブートモードを変更するには、上下の矢印キーを使用して「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、+/- キーを使用して「UEFI」と「Legacy」を切り替えます。
 7. 「Boot Settings」メニューで、下矢印キーを使用して「**Boot Device Priority**」を選択し、Enter を押します。
「Boot Device Priority」メニューが表示され、認識されているブートデバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、ブートの優先度がもっとも高いデバイスです。
 8. 「Boot Device Priority」メニューで次を実行して、リストの最初のブートデバイスエントリを編集します。
 - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、Enter を押します。
 - b. 「Options」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時ブートデバイスを選択し、Enter を押します。



注記

変更する各デバイス項目に対して手順 8a および 8b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスのブート順を変更できます。

-
9. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 を押します。
または、「Save & Exit」メニューで「**Save and Reset**」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージダイアログで「**OK**」を選択して、Enter を押します。



注記

Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 はローカル OS にトラップされます。このため、リモートコンソールアプリケーションの上部にある「Keyboard」ドロップダウンメニューから「F10」オプションを使用する必要があります。

▼ Legacy BIOS と UEFI BIOS を切り替える

BIOS ファームウェアは、Legacy BIOS と Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) BIOS の両方をサポートしています。デフォルトの設定は Legacy BIOS です。VMware ESXi 5.0 および ESXi 5.1 は Legacy BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしているので、インストールを実行する前に、Legacy BIOS ブートモードと UEFI BIOS ブートモードのどちらかに BIOS を設定できます。



注記

VMWare ESXi 仮想マシンソフトウェアをインストールしたあとで、レガシー BIOS から UEFI BIOS (またはその反対) に切り替えることにした場合は、ソフトウェアを再インストールする必要があります。

1. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、サーバーをリセットするには:

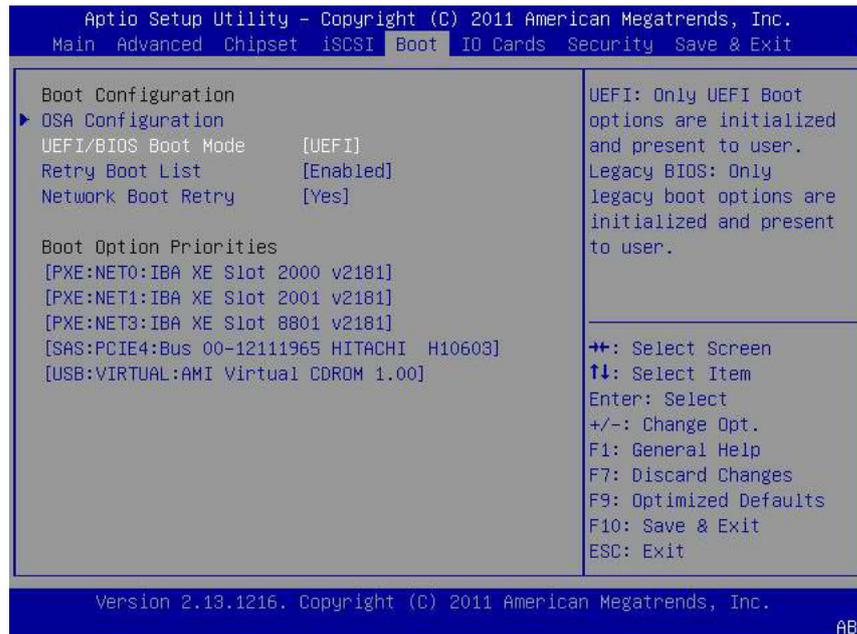
- ローカルサーバーから、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- **Oracle ILOM CLI** で、プロンプトから次のコマンドを入力します。

```
-> reset /System
```

BIOS 画面が表示されます。



2. BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。
しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティーが表示されます。
3. BIOS 設定ユーティリティーで、上部のメニューバーから「Boot」を選択します。
「Boot」メニュー画面が表示されます。



4. 「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、+/- キーを使用して、目的のモード (Legacy BIOS または UEFI) に設定を切り替えます。
5. 変更を保存して BIOS を終了するには、F10 キーを押します。

ネットワーク接続をサポートするための VMware ESXi 5.0 ソフトウェアまたはサーバーハードウェアの構成

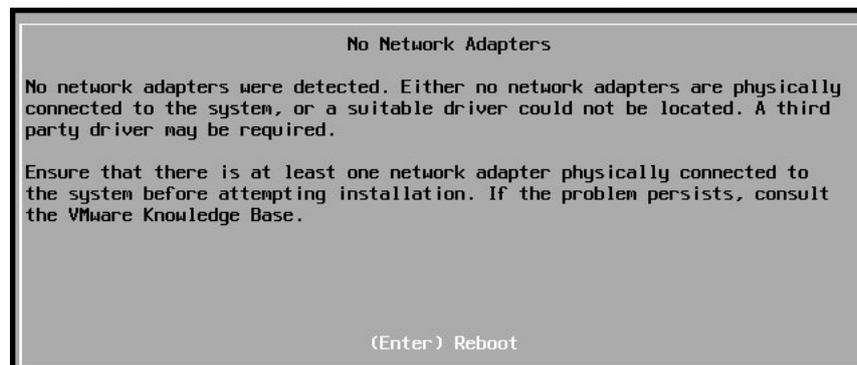
VMware ESXi 5.0 Update 2 仮想マシンソフトウェアのダウンロード ISO イメージにはサーバー内蔵のネットワークアダプタ用のドライバが含まれていないため、このイメージはサーバーにインストールされません。



注記

このセクションに記載されている情報は、VMware ESXi 5.1 Update 1 のインストールには適用されません。VMware ESXi 5.1 Update 1 のインストールイメージには、サーバーのオンボードネットワークアダプタのドライバが含まれています。

必要なドライバがない場合、ESXi 5.0 Update 2 インストールプログラムは利用可能なネットワーク接続の検出に失敗し、次の情報メッセージを表示して終了します。



したがって、ESXi 5.0 Update 2 ソフトウェアをインストールする前に、次のいずれかを実行する必要があります。

- 必要なドライバを ESXi インストール ISO イメージに追加します。
必要なドライバを ESXi ISO イメージに追加する手順については、[20 ページの「ESXi ISO インストールイメージへの必要なドライバの追加」](#)を参照してください。
- 標準のダウンロード ESXi 5.0 Update 2 ISO イメージと互換性のあるネットワークインタフェースカード (NIC) をサーバーに取り付けます。
互換性のある NIC カードの確認および取り付け手順については、[20 ページの「互換性のあるネットワークインタフェースカードのサーバーへの取り付け」](#)を参照してください。

ESXi ISO インストールイメージへの必要なドライバの追加

オフラインの保管場所にある ZIP ファイルを使用して、ドライバを ESXi 5.0 Update 2 インストール ISO イメージに追加します。カスタマイズした ESXi インストール ISO イメージにオフラインの保管場所にある ZIP ファイルを組み込む手順については、vSphere 5 のドキュメントのトピック「vSphere ESXi Image Builder CLI の使用」(http://pubs.vmware.com/vsphere-50/topic/com.vmware.vsphere.install.doc_50/GUID-78CC6C2E-E961-4A5E-B07D-0CE7083DE51E.html) を参照してください。

My Oracle Support または VMware のダウンロード Web サイトから必要なドライバをダウンロードできます。

- My Oracle Support から必要なドライバをダウンロードする手順については、『[設置](#)』「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。
- 必要なドライバを VMware の Web サイトからダウンロードする手順については、http://downloads.vmware.com/d/details/dt_esxi50_intel_x540_t2ixgbe3_6_5/dCV0YnRod2pidGVkZA== を参照してください。

互換性のあるネットワークインタフェースカードのサーバーへの取り付け

変更されていない ESXi インストール ISO イメージと互換性がある NIC を入手し、サーバーの背面にある使用可能な外部 PCIe スロット (PCIe カードスロット 1、2、または 3) のいずれかに取り付ける必要があります。

互換性のある NIC カードを確認するには、<http://www.vmware.com/resources/compatibility/search.php> にある VMware ハードウェア互換性リスト (HCL) を参照してください。

NIC カードをサーバーに取り付ける手順については、NIC カードに付属の取付ドキュメント、および『[サービス](#)』、「PCIe カードの保守 (CRU)」に記載されている PCIe ライザーとカードの保守手順を参照してください。

RAID の構成

RAID (Redundant Array of Independent Disks) を使用する場合は、VMware ESXi をインストールする前にサーバーで RAID を構成しておく必要があります。RAID を構成する手順については、『[設置](#)』、「OS インストール用のサーバードライブの構成」を参照してください。

関連情報

- Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

3

VMware ESXi のインストール

このセクションでは、VMware ESXi を サーバー にインストールする手順について説明します。

説明	リンク
プリインストール要件。	23 ページの「準備作業」
メディアによる単一のサーバーへの VMware ESXi ソフトウェアのインストール。	24 ページの「メディアによる単一システムへの VMware ESXi のインストール」

準備作業

次の要件が満たされていることを確認します。

- RAID (Redundant Array of Independent Disks) をサーバーのストレージドライブ上で構成する場合は、VMware ESXi をインストールする前にそれを行う必要があります。RAID を構成する手順については、『設置』、「OS インストール用のサーバードライブの構成」を参照してください。



注記

サーバーに Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (SGX-SAS6-R-INT-Z) が搭載されている場合は、VMware ESXi をインストールする前に RAID ボリュームを作成してそれをブート可能にする必要があります。そうしないと、HBA がサーバーのストレージドライブを特定できなくなります。

- コンソール表示オプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションと設定手順の詳細は、[8 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。
- ブートメディアオプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションと設定手順の詳細は、[10 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
- インストール先オプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションと設定手順についての詳細は、[12 ページの「インストール先オプションの選択」](#)を参照してください。

- BIOS 設定がデフォルトに設定されていることを確認します。BIOS 設定を確認し、必要に応じて BIOS 設定を実行する方法の詳細は、15 ページの「BIOS の出荷時デフォルトを検証する」を参照してください。
- ネットワーク接続をサポートするように VMware ESXi ソフトウェアまたはサーバーハードウェアを構成します。手順については、19 ページの「ネットワーク接続をサポートするための VMware ESXi 5.0 ソフトウェアまたはサーバーハードウェアの構成」を参照してください。
- ローカルインストールの場合、プロンプトが表示されたときに、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブに ESXi のインストールメディアを挿入します。
- リモートインストールの場合、Oracle ILOM リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブに ESXi のインストールメディアを挿入します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM」を選択していることを確認します。
- ESXi イメージを使用している場合、Oracle ILOM リモートコンソールシステムから ESXi ISO イメージにアクセスできることを確認します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM Image」を選択していることを確認します。
- VMware ESXi のインストールの場合、VM サービスコンソールに使用するネットワーク管理インタフェースを決定します。

VM サービスコンソールおよび管理インタフェースでは、ネットワークインタフェースが必要です。サービスコンソールは、最初に見つかった接続中のインタフェースを自動的に使用しません。このため、ネットワークインタフェースのデフォルトは vmnic0 に設定されており、インストール中にサービスコンソール用のネットワークインタフェースを選択する必要があります。

- VMware ESXi のドキュメントを準備し、このセクションで説明している手順と併せて使用できるようにしてください。VMware ESXi のドキュメントは、<http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vcenter-server-pubs.html> から入手できます

メディアによる単一システムへの VMware ESXi のインストール

このセクションでは、VMware ESXi 5.0 Update 2 および 5.1 Update 1 for x86 (64 ビット) ソフトウェアのインストールについて説明します。

- 24 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して VMware ESXi をインストールする」

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用して VMware ESXi をインストールする

次の手順では、VMware ESXi ソフトウェアをローカルメディアまたはリモートメディアからインストールする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから VMware のインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- VMware ESXi 5.0 Update 2 または 5.1 Update 1 の CD または DVD (内蔵または外付けの CD/DVD)
- VMware ESXi 5.0 Update 2 または 5.1 Update 1 の ISO イメージ (ネットワークリポジトリ)



注記

VMware の ISO イメージを使用して、リモートインストールを実行したり、インストール CD または DVD を作成したりできます。

1. インストールメディアがブートに使用できることを確認します。
 - **ディストリビューション CD/DVD の場合。**ローカルまたは外付け CD/DVD-ROM ドライブに、VMware ESXi 5 配布メディアのブートディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
 - **ISO イメージの場合。**ISO イメージが使用可能で、ブートディスクイメージ (番号 1 が付いた CD、または DVD) が Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションで選択されている (「Devices」メニュー>「CD-ROM Image」) ことを確認します。インストールメディアを設定する方法の詳細は、[10 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
2. サーバーをリセットするか、サーバーの電源を入れます。

たとえば、サーバーをリセットするには:

 - **ローカルサーバーから、**サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
 - **Oracle ILOM Web インタフェースから**「Host Management」>「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
 - **Oracle ILOM CLI で**「reset /System」と入力します

BIOS 画面が表示されます。



注記

次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、これらのメッセージを注意して観察してください。

3. BIOS 画面で、F8 キーを押して、VMware のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。
4. 「Boot Device」メニューで、最初のブートデバイスとして外付けまたは仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。

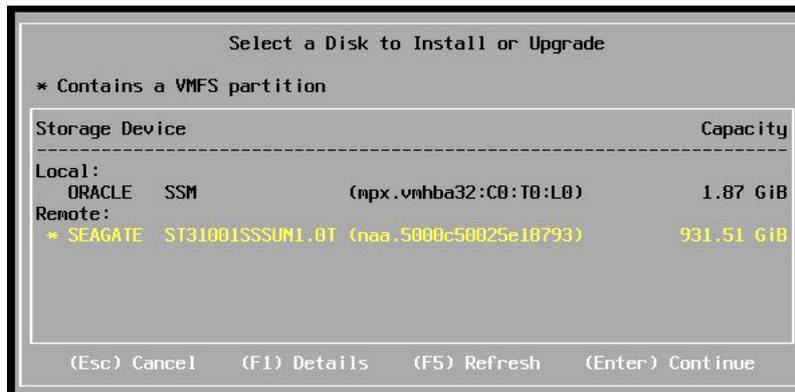
「Boot Device」メニューに表示されるデバイスの文字列は、*デバイスタイプ スロットインジケータ* および *製品 ID* 文字列で構成されています。

数秒後、VMware インストールプログラムのスプラッシュ画面が表示されます。

5. インストールを完了するには、VMware ESXi 5 のインストールドキュメントを参照してください。

VMware ESXi 5.0 Update 2 および 5.1 Update 1 のインストールドキュメントは、<http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vcenter-server-pubs.html> から入手できます。

6. 次の画面が表示されたら、ESXi ソフトウェアをインストールするストレージドライブを選択します。



7. VMware ESXi のインストールが完了したら、27 ページの「[VMware ESXi のインストール後タスク](#)」に進みます。

4

・・・第 4 章

VMware ESXi のインストール後タスク

VMware ESXi のインストールが完了したら、次に示すインストール後タスクを確認し、使用しているシステムで該当するタスクを必要に応じて実行します。

説明	リンク
ネットワークアダプタの構成。	27 ページの「ネットワークアダプタ設定を構成する」
接続されているネットワークポートの MAC の確認。	29 ページの「接続されているサーバーネットワークポートの MAC アドレスを確認する」
VMware ESXi ソフトウェアの更新。	29 ページの「VMware ESXi ソフトウェアを更新する」
VMware ESXi リソースを管理します。	29 ページの「VMware ESXi リソースを管理する」

▼ ネットワークアダプタ設定を構成する



注記

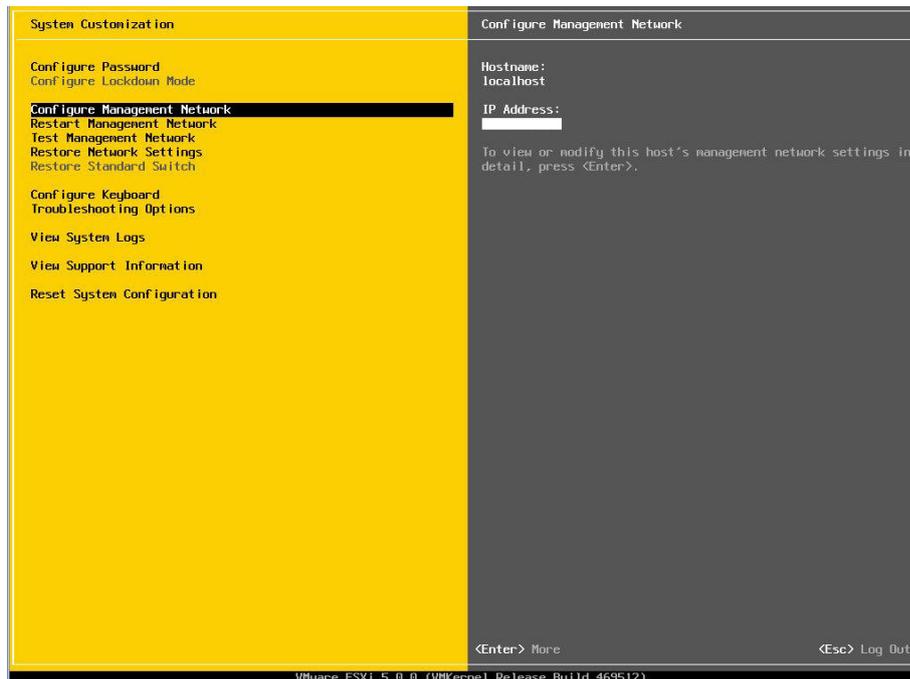
このタスクは、静的 IP アドレスを使用している場合にのみ必要です。動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用している場合、このタスクは必要ありません。

次の手順では、サーバーに取り付けられているネットワークアダプタを利用できるように VMware ESXi を設定する方法について説明します。これらの手順には、サーバーに取り付けられた各ネットワークアダプタの物理ポートの場所を検出する手順も含まれます。

1. VMware ESXi ソフトウェアのインストールが完了し、サーバーをリブートすると、次の画面が表示されます。



2. 「Customize System/View Logs」を選択するには、F2 を押します。
3. VMware ESXi Server にログインします。
4. 「System Customization」ダイアログにアクセスし、「**Configure Management Network**」を選択します。



5. このタスクを完了するには、<http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vcenter-server-pubs.html> にある VMware のドキュメントを参照してください。

▼ 接続されているサーバーネットワークポートの MAC アドレスを確認する

サーバーには、NET0、NET1、NET2、および NET3 の 4 つのネットワークポートがあります。このどれかのポートがネットワークに接続されると、VMware ESXi はそのポートに MAC アドレスを割り当てます。



注記

単一プロセッサシステムでは、NET 2 および NET 3 は機能しません。

- 各サーバーネットワークポートの MAC アドレスを確認するには、Oracle ILOM コマンド行インタフェース (CLI) で各サーバーネットワークポートに対して次のコマンドを入力します。

-> `show /System/Networking/Ethernet_NICs/Ethernet_NIC_n`

ここで、*n* は 0、1、2、または 3 です

たとえば、サーバーネットワークポート **NET0** が接続されている場合、上記の CLI コマンドは次の出力を生成し、**mac_addresses** フィールドには MAC アドレスが一覧表示されます。

```
-> show /System/Networking/Ethernet_NICs/Ethernet_NIC_0
/System/Networking/Ethernet_NICs/Ethernet_NIC_0
Targets:
Properties:
  health = OK
  health_details = -
  location = NET0 (Ethernet NIC 0)
  manufacturer = INTEL
  part_number = X540
  serial_number = Not Available
  mac_addresses = 00:21:28:3D:B7:96
Commands:
  cd
  show
->
```



注記

選択するネットワークアダプタが不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

▼ VMware ESXi ソフトウェアを更新する

VMware ESXi のインストールメディアには、最新バージョンのソフトウェアが含まれていない場合があります。必要に応じて、VMware ESXi ソフトウェアを最新の更新およびパッチで更新します。

- ダウンロード手順については、この Web サイトを参照してください。
<http://support.vmware.com/selfsupport/download/>

▼ VMware ESXi リソースを管理する

VMware では、ESXi に関するドキュメントを提供しています。

- VMware ESXi リソースの構成と管理については、次で VMware のドキュメントを参照してください。

<http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vcenter-server-pubs.html>

5

・・・ 第 5 章

ネットワークインタフェースの構成

このセクションでは、次の情報について説明します。

- ・ [31 ページの「NIC コネクタ」](#)

NIC コネクタ

サーバーのネットワークインタフェースコネクタには、次のように物理的なラベルが付いています。

表5.1 NIC コネクタのラベル

NIC コネクタのラベル	インタフェースタイプ
net0	第 1 NIC インタフェース (ixgbe0)
net1	第 2 NIC インタフェース (ixgbe1)
net2	第 3 NIC インタフェース (ixgbe2)
net3	第 4 NIC インタフェース (ixgbe3)



注記

単一プロセッサシステムでは、NET 2 および NET 3 は機能しません。

索引

シンボル

VMware

- ドキュメントの Web サイト, 28
- ブートディスクイメージ, 25

VMware ESXi

- ISO イメージ, 25
- インストールオプション, 13
- インストール後タスク, 27
- 更新およびパッチ, 29
- サーバーの電源のリセット, 25
- サポートされているソフトウェアバージョン, 8
- ソフトウェアの更新, 29
- ネットワークアダプタの構成, 27
- ネットワークインタフェースの構成, 31
- ネットワーク接続をサポートするように構成する, 19
- リソースの管理, 29

VMware ESXi ソフトウェア

- 単一システムへのインストール, 24
- ローカルメディアまたはリモートメディアを使用してインストールする, 24

VMware ESXi ハードウェア

- ネットワーク接続をサポートするように構成する, 19

あ

一時ブートデバイス

- 指定, 25

インストール

- タスクマップ, 7

インストールオプション

- 単一サーバー, 13

インストール後タスク

- VMware ESXi, 27

インストール先

- オプション, 12
- オプションの選択, 12
- ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイス, 13
- ローカルストレージドライブ, 13

インストール方法

- ブートメディアオプション, 10

か

互換性のあるネットワークカード

- 取り付け, 20

コンソール表示オプション, 8

さ

サーバー

- 電源のリセット, 25, 25

サーバーの MAC アドレス

- 確認, 29

た

- タスクマップ, 7

な

ネットワークインタフェース

- 構成, 31

は

ブートディスクイメージ

- VMware, 25

ブートデバイスメニュー

- 選択, 25

ブートメディア

- オプション, 10

- 選択, 10

- ブートメディアのインストール, 10

ら

リモートコンソール

- 設定, 9

リモートブートメディア

- 設定

- VMware ESXi, 11

- 要件, 10

ローカルコンソール

- 設定, 9

ローカルブートメディア

- 設定, 11

- 要件, 10

